



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学附属図書館報「榆蔭」130号
Issue Date	2008-11-28
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/66259
Type	journal
File Information	yuin130.pdf





ゆい 蔭

Yuin

北海道大学附属図書館報

目 次

大学図書館を支えるもの

附属図書館情報管理課長 菅原 英一…………… 1
寄贈資料紹介

Ian Morrison. "Englishman in Japan"について
文学研究科教授 白木沢 旭児…………… 6
お知らせ

- ・柳（潘）淳沢国連事務総長夫人が北大植物園と
附属図書館北方資料室を見学…………… 9
- ・来館日誌（平成20年 7月～10月）…………… 10
- ・北海道大学附属図書館講演会を開催しました
…………… 11
- ・平成20年10月 1日から附属図書館（本館・北分
館）の館外貸出が変わりました…………… 12
- ・2008北海道大学オープンキャンパスを実施しました…14
- ・新たな北キャンパス図書室がスタートしました
…………… 15

・25,000編目の論文は理学部学生から! :HUSCAP
…………… 16

資料紹介

平成20年度特別図書購入費による購入資料…………… 17

海外出張報告

学術情報のさらなる流通と可視性の向上を求めて
—DC2008ポスター出展とTIB訪問について—

附属図書館情報システム課 紙谷 五月

附属図書館情報管理課 問谷 実希…………… 21

附属図書館北方資料室紹介（シリーズ6）…………… 24

教員著作寄贈図書・学術成果コレクション（HUSCAP）

寄贈文献（平成20年 6月13日～10月15日）…………… 27

会議（平成20年 7月12日～11月14日）…………… 29

各委員会等委員変更について…………… 30

人事往来…………… 30

図書館日誌（平成20年 7月～10月）…………… 31

大学図書館を支えるもの

附属図書館情報管理課長 菅原 英一

【1】大学図書館の機能

大学図書館はいくつかの機能を持っている。
学習図書館的機能、研究図書館的機能、保存図
書館的機能、電子図書館的機能、等。そして、
ここ数年のトレンドを示すキーワードとして、
電子ジャーナル、情報リテラシー教育、ラーニ
ング・コモンズ、機関リポジトリ、等がある。
大学図書館について何かを語ろうとすると、
これらの言葉は概念として不可欠の前提となる

ものである。

或いは、次のようにアプローチすることもで
きる。北海道大学附属図書館は、蔵書冊数約
370万冊、学生への貸出冊数約26万冊、図書館
費1,422,807千円、等であり、朝日新聞出版の
「大学図書館ランキング」（『大学ランキング
2009』所収）で総合10位に入る、国内で有数の
大学図書館である。

そして、最低限おさえておくべき、国レベル

の提言として「学術情報基盤としての大学図書館等の今後の整備の在り方について」から以下の言葉を確認しておきたい。

- 1) 大学図書館は、大学の教育研究活動を支える重要な学術情報基盤であることを明確に位置付け、大学としての情報戦略を持つことが必要。
 - 2) 各大学の教育研究の活性化や我が国の学術情報の流通促進等のため、各大学は機関リポジトリに積極的に取り組む必要があり、文部科学省はその取組みを支援。大学図書館が機関リポジトリの構築・運用に中心的な役割を果たすことを期待。
 - 3) 紙媒体資料をはじめ、さまざまな学術資料の収集・保存・提供について、各大学の教育研究の特徴にあわせ、その充実に努めることが必要。
 - 4) 目録所在情報サービスについて、大学図書館等が主体となり、国立情報学研究所と協議しつつ、新たなビジョン・理念を打ち出すことが必要。
 - 5) 高度の専門性・国際性を持った人材の確保・育成のため、在職しながらの大学院等での勉強や研修会への参加の奨励、専門性を持った職員のキャリアパスの創出等について検討することが必要。
 - 6) 大学図書館の教育支援サービス機能を強化するには、多様化する利用者ニーズに円滑・迅速に対応するとの観点が重要。情報リテラシー教育の推進に当たっては、教員との連携の上に立った取り組みが必要。
 - 7) 地域社会や産業界との連携・交流の強化や館種、国境を越えて協力することが重要。
- これらの対応策は、平成18年3月に科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会が『学術情報基盤の今後の在り方について（報告）』の一部として発表したもので、2年半も時間が経過しているが、現在

でも大学図書館運営の指針として一定の役割を持っているものである。

【2】利用者からの視点

ここで少し違った側面から考えてみたい。というのは、【1】のように書きはじめてみて何かが足りないと感じるからだ。このような語り口に決定的に欠けているもの。そう、利用者からの視点である。

つまり、北海道大学附属図書館は、蔵書冊数約370万冊で・・・，という語り口は、図書館サービスを提供する側からのものである。大学図書館を利用する教員や学生の一人ひとりにとっては、蔵書冊数が100万冊だろうが、300万冊だろうが、そのこと自体は直接的な関心事ではないはずだ。図書館サービスを提供する側にとっては運営上の重要な指標ではあっても、利用者にとっての関係性が希薄なことから時には自由になる必要がある。自由になって利用者は何を望んでいるのかと自問してみる必要がある。このように自問してみると、それを利用者からの視点、とすれば、その視点の繰り込みが図書館の活動を活性化させる最も重要な源泉であると言える。だから、図書館員がサービスの過程で何かに迷うようなことがあったら、どんな場合でも利用者につく姿勢を持つことが必要なことだ。それも、「マス」としての利用者ではなく、一人の利用者からの視点は何より重要である。何故なら、一人の利用者からの視点のみが、実際に図書館サービスを提供する一人の図書館員と拮抗可能だからである。

このように書いたからと言って、多数利用者の動向が図書館運営上のキーポイントであることは当然のこととして踏まえている。多数とは別の視点を置くことによって新たに見えてくることがあると言っているのである。

【3】仮想対話

話を進めるために寓話的な仮想対話を紹介しておきたい。（仮想であるので、現実のいかなるやりとりも指し示していない。）

A館長「君は自分がもう一人いれば、ということ考えたことがあるかい？」

B館員「何ですか。唐突ですね。」

A館長「いやね、図書館長として仕事をしていると、図書館員の大変さが分かってきて、その分、気軽に文献入手などを頼んだりすることが億劫になることがあってね。そういう時に、もう一人自分がいればと思うことがあるんだよ。」

B館員「文献入手に関して、どんなことでも手助けしたいと思っていますが。」

A館長「図書館長の仕事は、大学当局との予算折衝をはじめ、いろんなことに気を使う必要があるのは分かるだろう。それにもまして館員一人ひとりのことが気にかかるからね。」

B館員「私も大学図書館に勤めて5年程になります。少し仕事に分かりかけてきたところです。カウンターでは丁寧に対応しているつもりです。」

A館長「個々の職員の対応を問題にしているわけではないのですよ。ですが、昨今、型にはまって硬直した対応が目につくような気もするけどね。」

B館員「以前、江藤淳の訳で知られる『チャリング・クロス街84番地』という本を読んだことがあります。書物を介しての古書店主と作家との心温まる交流を記録した往復書簡集です。このような本が研究者と図書館員との交流をテーマに現れればよいな、と思っているんです。」

A館長「そうであるなら、君ね、常に現状に疑問符を打つこと。分かりますか。これが大事だよ。先入観や頭の固さを打ち破るのは誰にとっても困難なことです。だか

ら、君らの場合は、課題に直面したときの解決にあたって、たえず利用者の像を発想のなかに繰り込む、そういう訓練をすること。そのように自分の行動様式を鍛え上げていくことが肝要でしょうね。そのような図書館員が増えてくれば、僕も、もう一人の自分なんて言わなくても済むかも知れないね。」

【4】MEMEX

「もう一人の自分」とは文献入手にあたって実際に存在する様々なバリアの解消を意味する理想の図書館を暗喩しているとすれば、そのことを今から60年以上前に構想した人がいる。ヴァンネバー・ブッシュである。1945年に発表された「人の思考のように：Memex」に以下の言葉がある。

「個人向けの未来の装置を考えてみよう。これは、機械化された個人用ファイルと個人用図書館である。名前が必要なら、「memex」と命名しておこう。memexは、個人がすべての蔵書、記録、手紙を蓄積し、かなり速く柔軟にこれを調べることができるように機械化された装置である。これは、個人の記憶に広がりを与える身近な補助装置である。」

（『情報学基本論文集Ⅰ』，勁草書房，1989年刊，所収）

「個人の記憶に広がりを与える」こと、これが「もう一人の自分」の謂いである。

「memex」のデータ蓄積の媒体はマイクロフィルムであるが、理論的には「memex」の延長線上に今のインターネット上の情報資源があるわけである。大学の研究者は夜中の2時だろうが早朝の5時だろうが、インターネットに接続されたパソコンがありさえすれば、電子ジャーナルや学術文献データベースの閲覧が出来るし、OPACも検索できる。自動書庫を導入すれば、OPACを通しての図書の置き置きも指示できる。誰に気兼ねすることもなく効率的な情報取得が

可能である。大学の研究者の情報取得の効率性を高めることを私たちは推進してきたし、今後とも推進していくことになる。そして、このような環境を提供・維持するために、どこの大学(図書館)も相当のコストを負担している。

一方、紙媒体の図書や雑誌の役割が低下しているかという点、そうではない。図書館が本を沢山集めて効果的に利用してもらう空間である、という側面は相変わらず重要である。紙媒体と電子媒体との両面を受け持つ「ハイブリッド・ライブラリー」という言葉があるが、当分この状態は続くだろう。

【5】書誌

膨大な量の文献のなかから、必要なものを探し出そうとすると、その手がかりとなるのは、普通は書名や論文名や著者名等の書誌情報である。目録やメタデータとも呼ばれている。

書誌について確認しておきたいのは、書誌は流通するものだ、ということだ。つまり、図書の購入依頼や文献複写の依頼等の情報入手行為の始まり等において、書誌情報が文献本体のかわりとしてやり取りされる。こんなことは当たり前ではないか、と言われるかもしれない。しかし、この当たり前のことが私たちに教えてくれるのは、書誌の伝達性という属性である。この書誌の伝達性という属性のおかげで、利用者は図書館員と関係を持つことが可能なのである。

北海道大学附属図書館本館の従来の係に相当する職務単位(担当)は、「庶務」「会計」「図書受入」「雑誌受入」「本館閲覧」「利用支援」「情報リテラシー」「相互利用」「北方資料室」「システム管理」「目録」の11部署がある。この中で、庶務と会計以外のすべてが、その濃淡の違いはあれ、書誌情報を扱って仕事を行っている。つまり、書誌を媒介にして利用者と繋がっているということになる。このことを別の観点から表現すると、「もう一人の自分(=擬似的な図書館員)」から「自分以外の他者(=図書

館員)」へ関係を転載する役割を持っているのが書誌であるとも言える。

【6】図書館員

大学図書館が直面する課題のなかで最も重要でありながら最も困難性の高いと思われるのは、図書館員の専門性の向上に関わることである。

いささか年代が古いですが、アメリカの例で、以下のような事例がある。

「1994年1月現在のSFPLの職員構成は、管理職9人、専門職166人、準専門職145人、補助職191人です。(中略)図書館学修士号をもち、専門職についている職員は、図書館の方針を理解し、意思決定ができ、図書館が直面している課題について分析できる能力をもち、結論を導き出せること、さらには図書館の知識・技術をもち、そして適切な応対ができることなどが要求されます。」

(悦子・ウイルソン著『サンフランシスコ公共図書館』日本図書館協会、1995年刊)

SFPLとはサンフランシスコ公共図書館のことだが、図書館学修士号を持っている図書館員を専門職と位置付けている。全職員の約3分の1が修士号を持った専門職である。

例えば、北海道大学附属図書館において、いきなりこのような状態を作り出すのは当然無理であるし、アメリカの例をそのまま日本に持ってきて上手くいくという保証はもとよりない。だが、横目に見て気にしておく必要はあると思う。大学院等での勉学を含む「高度の専門性・国際性を持った人材の確保・育成」(「学術情報基盤の今後の在り方について」)は必要とされているからであるし、何より、図書館や図書館サービスは有能な専門職がいることによりその存在価値を増すからである。

専門職キャリアパスの創出には抜本的な制度改革が必要だが、多面的な職員育成は次善の策として積極的に実施すべきと考える。有意味的な課題解決の訓練を通じた職員養成(OJT)が中

心となることは論を待たない。そして、国内・国外の会議・研修等への積極的な派遣や、さらに、図書館員同士によるテーマごとの勉強会や読書会の開催、オフサイト・ミーティングの奨励、個人企画展による資料精通、等、現行の制度下でも様々なことが考えられる。

【7】理想の図書館

ポール・ヴァレリーの「理想の書物」と題された短文のなかに「読みやすく、また眺めて楽しいとき、その書物は物質的に完璧である。すなわち読む行為から眺める行為へ、そして眺める行為から引き返してもういちど読む行為へ関連する微妙な視覚的变化に順応してたやすく移行できるとき。」とある。（『現代詩手帖』1987年3月号）

このように理想の書物をイメージすることは可能だ。芸術美の対象とすることも出来るだろう。しかし、理想の図書館は違う。理想の図書館とは、人間のかかわり（利用者と図書館員）の上に構築される不可視のものだからだ。そして、その実体は、利用者からの視点を媒介にしてそれを求め続ける指向の日常のなかにあると言える。

寄贈資料紹介

Ian Morrison, "Englishman in Japan"について

文学研究科教授 白木沢 旭 児

附属図書館に内山浩二郎氏（在オーストラリア日本大使館勤務）の仲介によってIan Morrison著 "Englishman in Japan"と題した未公開手記が寄贈された。著者のイアン・モリソン（1913～1950）は、かつて"中国のモリソン"とよばれるほどの中国通であったジョージ・モリソン（英国紙『タイムズ』記者）の息子であり、1935年9月1日から37年9月10日まで北海道帝国大学予科の雇傭教師（英語）として教鞭をとっていた。今回寄贈された手記は、タイプ打ち原稿で800枚におよぶもので、旅行好きの彼が訪れた日本国内各地の様子と北大での経験が書かれており、まことに興味深い資料である。まず、目次を掲げておこう。

第1巻 日本生活のはじまり

1. 出発
2. いわゆる「海に浮かぶユートピア」
3. 最初の印象

第2部 2頭の北海道馬に乗って日本国内旅行－1936年夏－

第2巻

第2部の続き

第3巻

第2部の続き

日光から軽井沢へ

軽井沢

浅間と草津

生活を変える

一度来た道

富士

第4巻

伊豆半島

大島

三等客車にて

3ヶ月後

東海道

第5巻

北海道

大学

賞賛すべき人々

日本の神話

第6巻

5つの代表的な日本歌謡

四国旅行－1936年－

筆者はこのなかで、第5巻をお借りしたので、「大学」の部分を紹介したい。この部分は原稿で40枚あり、彼が採用された北海道大学、とりわけ予科のようすが書かれている。イアン・モリソンはケンブリッジ大学出身で、日本の教育制度は異質に見えたようである。当時の日本の教育制度を説明した後に、彼はこのように述べる。

さて、北海道大学は帝国大学のなかでもユニークな存在である。というのは大学の準備課程として知られる高等学校と合体しているからである。普通、高等学校と大学は別々であり、高等学校の卒業生はいずれの帝国大学の入学試験も受けることができる。しかし、北大（北海道大学の略称）では、そうではない。生徒は準備過程（「予科」と呼ばれる）の入学試験に合格すると、3年後に彼は自動的に入学試験を受けることなく大学課程（本科と呼ばれる）に進学するのである。

このことによって、いったん北大予科に入った者が、北大以外の他の帝国大学に入ることは非常に困難（というかほとんど不可能）なのである。同様に、たとえ他の高等学校の卒業生であっても、時々、北大本科に入学することがあるのだが（特に理学部）、それは珍しく、本科の学生の87%は予科出身である。（45頁～46頁）

日本国内の帝国大学（「外地」の京城帝大、台北帝大も予科をもつ）のなかで、予科をもつことが北大の特徴であったが、そのことにモリソンも注目している。彼は、予科生に英語を教えたわけだが、予科という制度の功罪を次のように見ていた。

この大学の二つのパート（予科と本科）が結びついていることは、良い面と悪い面をもっている。第一に、予科の生徒は6年間の安泰を保証され、全体としてのんきに群がっていて、とりわけ入学試験という妖怪がしばらくの間、影をひそめているので、本州の多くの高等学校生徒に比べてのんびりしていて幸せである。第二に、ひとたび予科に入ると彼らは自己の進路を操ることはほとんどなくなる。それは、次のような事情による。毎年、4000名の中等学校生徒が北大予科の入試に挑戦する。そして約320名が合格する。このうち上位80名は医学部進学コースに、次のランクの120名は工学部進学コースに、その次のランクの120名は農学部進学コースに配分される。18歳の生徒（われわれから見ると若く未熟である）は、一度、技術者コースに入ると、彼はあたかもレールの上の列車のように進み続けるのである。予科3年目が終わると、120名の工学部進学組の上位30名は土木工学科へ進み、最下位30名は鉱山学科へと進み、中間の60名は機械工学科や電気工学科に進むのである。（46頁～47頁）

あくまでも2年間教師を務めた外国人の目に映った事実なので、統計的なことは、改めて確認しなければ断定できないが、予科から本科に至るまで、予科入学時の成績による「輪切り」が存在し、生徒は自己の位置に応じて進路を決めていた（受け入れていた）様子が描かれている。

モリソンは、北大（日本の大学）とケンブリッジ大学を筆頭とするイギリスの大学との違いにも困惑を隠さなかった。

まず第一に、ここは主として北海道で働くための熟達した専門家を養成することを期待された技術大学（technical university）なのである。それゆえ、圧倒的に多数の学生は彼らの将来の職業には直接役に立たない学科に所属しているケンブリッジ大学とは大きく異なるのである。それは、根底にある原理が異なっていると言ってもよいだろう。われわれイギリスでは、若者に彼ら自身の力で問題に対処し、研究を行い物事を発見することができるような道具の使い方、知識、道徳、精神を授けることを目標としている。（中略）われわれが強調するのは個人が自分自身で物事をつかむように訓練することである。このためにわれわれは将来決して使うことはないだろうと思われる学問を学ぶのである。ラテンとギリシャ（西洋古典学）は、ひとえにこれらが頭脳の訓練としての価値があるという理由だけで重要な役割を演じているのである。日本では、個人を訓練しようとする試みはほとんどなされない。日本の教育制度では、疑問は知性の自由な活動によって解決されるのではなく、過去に学んだ解答を思い出すことによって解決されるのである。知識は教員から分与されるものであり、学生はそれらを頭の中に定着するように吸収し覚えようとするのである。（49頁～50頁）

現在、私達は「北海道大学の伝統」ということにしばしば言及するが、その際、教養主義と実学主義（職業教育）が並置されるのが通例である。しかし、イギリス知識人が見た戦前の北大は、技術大学であった。このあとの部分でモリソンは、北大のカリキュラムが職業教育に偏していること、イギリ

スでは職業教育と人格教育は別個のものと考えられており、大学が行うのは人格教育であることを指摘している。

このように、「大学」の部分のごく一部を紹介したが、イアン・モリソンがイギリス知識人の目で戦前の北大を観察し、きわめて興味深い指摘を随所で行っていることがわかる。手記の大部分を占める日本旅行記の部分も、鋭い観察眼が発揮されているものと推察する。今後、いずれかの機会に全体の邦訳がなされることを期待したい。

お知らせ

柳（潘）淳沢国連事務総長夫人が北大植物園と 附属図書館北方資料室を見学

7月7日（月），柳（潘）淳沢国連事務総長夫人が来学され，植物園と附属図書館北方資料室を見学されました。

夫人は，植物園において増田園長の説明のもと，バラ園，北方民族資料室などを見学された後，附属図書館北方資料室を訪問されました。逸見館長，五十嵐事務部長による附属図書館の概要説明を受けてから，札幌農学校第2期生で，後に国際連盟初代事務次長を勤め，また『Bushido: The Soul of Japan』の著者としても国際的に著名な新渡戸稲造の農学校時代の書簡や講義ノート，北方資料室が所蔵する古地図やアイヌ関係資料等を見学されました。



沿革資料展示室にて 中央が柳（潘）夫人，左右に逸見館長，井手上係員



記念に，長尾輝彦編著「Nitobe Inazo—From Bushido to the League of Nations—」
（北海道大学大学院文学研究科研究叢書）を贈呈する逸見館長

来 館 日 誌

(平成20年7月～10月)

No.	来 館 者	来 館 日	時 間	人数	備 考
1	韓国子ども図書館職員	7月1日(火)	10:30-12:00	4	図書館見学
2	柳(潘)淳沢国連事務総長夫人	7月7日(月)	16:35-17:35	1	北方資料室
3	北海道ハイテクノロジー専門学校生徒	7月17日(木)	14:30-16:00	38	図書館見学
4	湧別町図書館協議会委員	8月27日(水)	9:30-11:30	8	北方資料室
5	市立函館高校生徒	9月22日(月)	13:40-15:40	76	図書館見学
6	国立台湾海洋大学教員	10月30日(木)	10:15-10:30	12	図書館見学
	計			139	



図書館の説明を受ける国立台湾海洋大学一行

北海道大学附属図書館講演会を開催しました

平成20年10月30日（木）北海道大学附属図書館大会議室において、道内国公立大学等の図書館職員を対象に平成20年度北海道大学附属図書館講演会が開催され、本学から40名、道内16機関から24名、合計64名の参加がありました。

今回の講演会のテーマは「求められる大学図書館像」であり、社会の信頼に応える学士課程教育等の実現や大学等の教育研究を支える基盤強化等の取組課題に対応して大学が動こうとしているとき、それに対して大学図書館はどのような貢献が出来るのかを図書館職員が考える機会とするものです。

このテーマに沿って、本学の嶋貫和男理事・事務局長による「大学図書館の現状と課題－管理運営面からのアプローチ」と題した基調講演がおこなわれました。

財務面、人事面、施設・設備面から大学図書館がかかえる問題点をあげ、これらはすべて予算に帰着するものであり、図書館機能を再定義し、大学が行っている学生の質の向上が安定した社会の実現につながることに貢献するという大きな視野で図書館の役割を見てゆくべきであること、図書館の役割を多くの場でアピールし社会的理解を得ることが財政基盤の確立につながることなどが述べられました。

菅原英一情報管理課長からは「学習支援サービスの充実が大学にもたらすもの」と題して学生用図書整備や情報リテラシー教育支援など学習支援の事例報告がありました。また、野中雄司情報システム課システム管理担当からは「研究成果発信が大学にもたらすもの」と題して「北海道大学学術成果コレクション（HUSCAP）」による研究支援の事例報告がありました。

事例報告後は、逸見勝亮館長の司会・進行により質疑応答及びフロア討議がおこなわれました。フロア討議は「図書館機能の再定義」「研究活動の支援」「図書館職員のあり方」の三つの論点をめぐって行われ、約80分にわたり参加者と講演者、事例報告者の間で活発な意見交換がされました。また、今回の講演会には教員の参加があり、研究者にとって電子ジャーナルが不可欠のツールであるとの意見も出され、大変参考になりました。

最後に、逸見館長は、図書館職員は学生の教育がどのようにおこなわれているか、研究者の研究活動がどのようにおこなわれているかを知るべきであると閉会の挨拶を述べ、盛況のうちに講演会を終了しました。



講演する嶋貫和男理事・事務局長



フロア討議の様子（左から逸見館長、嶋貫理事・事務局長、菅原情報管理課長、野中情報システム課職員）

平成20年10月 1 日から 附属図書館（本館・北分館）の館外貸出が変わりました

①開架の本の貸出冊数が 5 冊から 8 冊に増えました。

一般市民を除く全身分の利用者は 8 冊まで開架の本を借りることができるようになりました。一般市民の方はこれまで通り 2 冊までです。

②返却期限を超過した場合のペナルティが強化されました。

これまでは、本の返却期限を超過した場合、それらの本を全て返却すれば新たな貸出ができていました。これからは返却期限を超過した場合、本を全て返却しても、返却した日から返却期限を超過した日数分（最大30日間）新たな貸出ができなくなります。

附属図書館本館（参考閲覧室、北方資料室含む）、北分館の本が対象です。

例) 10月 5 日が返却期限の本を10月10日に返却した場合

→ 5 日間のペナルティが付与されるため、10月15日まで新たな貸出ができません。

※ 3 日間の猶予日数があるため、10月 8 日までに返却すればペナルティは付与されません。

③Web上で貸出期間の延長ができるようになりました。

貸出期間の延長を行う際、これまでは現物をカウンターに持参していただいていたのですが、ご自宅や研究室からWeb上で延長手続きができるようになりました。方法については次項をご覧ください。このサービスは学内利用者のみ利用できます。学外利用者（一般市民・卒業生含む）は利用できません。

④書庫本の貸出延長回数を 4 回までにしました。

これまでは書庫の本には、貸出期間の延長回数に制限がありませんでしたが、利用の公平性を考慮して、4 回までとしました。開架の本はこれまで同様 2 回までです。

⑤卒業生の貸出条件を改善しました。

一般市民の方と同じ貸出条件（開架：2 冊 書庫：貸出不可）だった本学卒業生・修了生の貸出条件を、「開架：8 冊，書庫：5 冊」に改善しました。

現在、一般市民の利用証をお持ちの方、利用証をお持ちでない方には、新たに「卒業生」の図書館利用証を発行します。

※必要書類

- ・利用証交付申請書（カウンターにご用意しています）
- ・「卒業・修了証書のコピー」または「卒業・修了証明書」
- ・免許証・保険証・職員証等、本人と確認できるもの
- ・北大の図書館利用証（すでにお持ちの方のみ）

⑥図書館からのお知らせをメールでお届けします。

教育情報システム（ELMS）に登録されているメールアドレスを、返却期限を超過している本のお知らせ、予約本のお知らせに使用します。既にメールアドレスを登録されている方には、これまで通り登録済のメールアドレスに連絡します。

●Webからの貸出期間延長方法

Webから貸出期間を延長するには「図書館情報WEBサービス」の利用申請が必要です。詳細については附属図書館Webページの「オンライン申込とは？」をご覧ください。（学外利用者（一般市民・卒業生含む）は利用できません。）

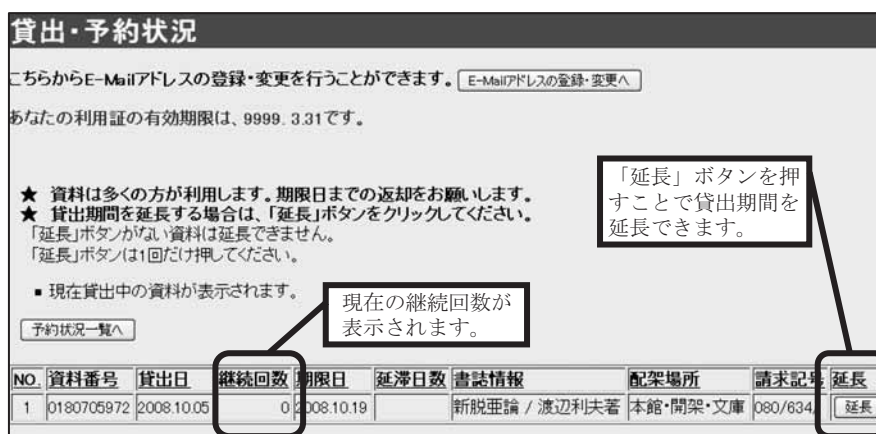
- ・附属図書館Webページの「オンライン申込（学内者のみ）」メニューの「貸出・予約資料照会、貸出期間延長」をクリックします。
- ・認証画面が開きますので、利用者IDとパスワードを入力してください。

※利用者ID：

- ・学部学生・大学院生：学生番号（8桁）＋学生証の有効期限日の近くにある数字（1桁）
- ・上記以外の方：図書館利用証の番号（9桁）



- ・画面右の「延長」ボタンを押すと貸出期間が延長されます。



※以下の場合には延長できません。

- ・「延長」ボタンが表示されない本。
（表示されるのは、平成20年11月現在、附属図書館本館（参考閲覧室、北方資料室含む）、北分館、歯学研究科/歯学部図書室の本のみです。）
- ・返却期限を超過している本がある場合、ペナルティが付与されている場合。
- ・予約がかかっている本。

※SSOシステムからもご利用いただけます。

（情報サービス課本館閲覧担当）

2008北海道大学オープンキャンパスを実施しました

今年も「北海道大学オープンキャンパス」が実施されました。8月3日(日)には、高校生だけでなく、その保護者の方、高等学校教員、及び一般市民の方も参加可能な「自由参加プログラム」が各部局等で実施され、附属図書館でも検索体験(北分館はデモンストレーション)と館内ツアーを実施しました。

附属図書館本館では、「図書館で“検索”を極めろ!!」と題して、参加者のみなさんに本学の蔵書検索や国会図書館の雑誌記事索引でこちらの設定したキーワードを検索してもらい、図書や雑誌に辿り着くまでを体験してもらいました。また、その後で、希望者については、本館の館内ツアーに参加してもらい、北大の貴重な資料を見学してもらいました。今年度から参加時間を短めに、より多くの回数を実施することに変更したことから、昨年度の約3倍の参加者になりました。

北分館では、参加時間をさらに短めに設定し、より多くの回数を開催しました。利用のメインとなる開架閲覧室や、多数のDVDを備えているマルチメディア公開利用室を案内し、北大蔵書検索のデモンストレーションを実施しました。

【本館】

- ◆内 容 「図書館で“検索”を極めろ!!」
 - ・ 検索体験(約20分)
 - ・ 館内ツアー(約10分、希望者のみ)
- ◆時 間 10:00から16:30まで、ほぼ1時間ごとに約30分間、合計7回実施
- ◆配布資料 「OPACの使い方」、「図書館利用案内 ～はじめての方へ～」
- ◆参加者数 110名(各回合計、その他自由見学者は102名)

【北分館】

- ◆内 容
 - ・ 館内ツアー(約10分)
 - ・ 北大蔵書検索のデモンストレーション(約5分)
- ◆時 間 10:00から17:00まで、ほぼ30分毎に約15分間。合計13回実施
- ◆配布資料 「北分館パンフレット」
- ◆参加者数 17名(各回合計、その他自由見学者は43名)



新たな北キャンパス図書室がスタートしました

電子科学研究所の北キャンパス地区への移転に伴い、電子科学研究所図書室と北キャンパス図書室が統合した新しい北キャンパス図書室が 8 月にオープンしました。

本年 7 月に完成した北キャンパス 5 号館（電子科学研究所研究棟）の 1 階に位置し、電子研図書室と旧北キャンパス図書室から引き継いだ 19,000 冊を超える図書・雑誌を所蔵しています。また、閲覧スペースには 20 席の閲覧席を配し、新聞閲覧コーナーや情報検索用の PC 等も用意しております。

開室時間は平日の午前 9 時～午後 5 時です。スタッフ一同（といっても 1 人しかいませんが）皆様のご利用をお待ちしております。



（情報サービス課北キャンパス合同事務部担当）

25,000編目の論文は理学部学生から！：HUSCAP

平成20年8月11日、北海道大学学術成果コレクション（HUSCAP）の収録文献数が25,000編に達しました。25,000編目の文献は、理学部地球科学科の4年生（論文投稿当時）の森下遊さんと、理学研究院自然史科学部門地球惑星ダイナミクス分野の日置幸介教授による以下の研究論文でした。

Yu Morishita and Kosuke Heki

Characteristic precipitation patterns of El Niño/La Niña in time-variable gravity fields by GRACE.

Earth and Planetary Science Letters, Volume 272, Issues 3-4, 2008, pp.677-682

<http://hdl.handle.net/2115/34505>



森下遊さん（左）と日置幸介教授（右）

森下さんから

「学部四年で行った研究がこのような論文になるとは研究開始時は思ってもみませんでした。日置先生や研究室の先輩など多くの方々の指導のおかげで研究を進めることができました。お世話になった皆様にとっても感謝しています。一年間の研究の成果がこのような形になって、とてもうれしく思います」

日置教授から

「2002年に重力の時間変化を測るGRACE と呼ばれる衛星が打ち上げられたのですが、東アフリカに強い（といっても毎年10億分の1減る程度）重力の減少が見られました。最初は地球内部に原因を探していたのですが、たまたまエルニーニョで降雨異常が出やすい地域であることを知って、本格的に研究を進めました。研究の推進役は、今年国土地理院に就職した当時学部四年の森下君です。昨年12月に投稿したのですが、掲載まで半年かかってしまいました。卒業研究がインパクトファクターの高い専門誌に論文として出るとはそう多くありません。雑誌購読料の高騰で読みたい雑誌を自由に閲覧できない環境の研究者の方に読んでもらいたいと思っています」

附属図書館では、論文等の研究成果のHUSCAPへの登録をお待ちしています。

(情報システム課システム管理担当)

資料紹介

平成20年度特別図書購入費による購入資料

特別図書購入費は、人文社会科学系の大学院における教育研究に必要な基本的図書資料を整備充実することを目的とした経費です。文学・法学・経済学各研究科，教育学院，国際広報メディア・観光学院，公共政策大学院に資料の選定をお願いした結果，今年度の購入資料が決定しましたのでお知らせします。ご協力まことにありがとうございました。これらの資料は，納品され，整理が済み次第，順次，本館の書庫に配置します。

●アメリカ合衆国対日政策文書集成 第22期:ニクソン大統領文書（全10巻）

米国公文書館の所蔵する国務省文書のうち，ニクソン大統領文書の繊維問題・航空交渉関係分のホワイトハウス特別文書（WHSF）と同中央文書（WHCF）である。これにより，1971年の2度にわたる「ニクソン・ショック」がなぜ起こったのか，日米間の繊維問題と航空交渉問題に関するアメリカ政府高官たちの思惑が明らかにされる。

●大阪銀行通信録 明治期(明治33.9－37.8)（復刻版）（第16～30巻）

『銀行報告誌』並びに『大阪銀行通信録』（復刻版では『大阪銀行通信録』のタイトルにて統一）は，明治23年3月に創刊し，昭和17年3月の金融団体統制令により廃刊を余儀なくされるまでの間，大阪同盟銀行集会所（のちに大阪銀行集会所に改組，現在の社団法人大阪銀行協会の前身）より発行されていた機関誌である。

当時の大阪を中心とする関西諸地域，並びに西日本各地における近代金融経済の動向を知る上での第一級の重要資料である。

●コレクション・モダン都市文化 第Ⅱ期（21～40巻）

1920年から1930年のモダンと呼ばれる時期の都市文化を多角的に研究する叢書群。好評であった第Ⅰ期20巻に続いて，「関東大震災」「サラリーマン」などのさらに多彩なテーマで基本文献を収録し，それぞれ研究の第一人者が解説を付した重要な研究基本資料である。原本のカラー図版が原色で収録されるなど，ヴィジュアル的にも重要な資料であり，近現代日本文化研究にとって不可欠といえるモダニズム総合資料集。

●書物5000年 [DVD]（全13巻）

- 第1巻 グーテンベルク42行聖書 第2巻 様々な書写材料
- 第3巻 写本 第4巻 東西印刷術のあけぼの 第5巻 洋書のかたちと慣習
- 第6巻 挿絵とテキスト 第7巻 世界の書店・古書店
- 第8巻 読書の歴史をたどる 第9巻 書物蒐集の魅力
- 第10巻 音読と黙読 第11巻 プライベート・プレス之美
- 第12巻 図書館はどう変わるか 第13巻 書物の行方

●戦後日本共産党関係資料 マイクロフィルム版（リールNo.1～27）

本資料は、1945年10月10日の幹部出獄に始まる日本共産党の戦後再建初期から、1950年1月6日付のコミンフォルム機関紙に掲載された論評「日本の情勢について」をめぐる党の分裂、1955年7月の六全協をへて、1958年の第七回党大会に至るまでの党の内実を示す「水野資料」を含む8,000余点の原資料を収録する。

●南島史学（創刊号～54号）

南島史学会の定期刊行誌（年2回）であり、当該地域（奄美・沖縄等）の歴史・文化・言語・民俗・社会に関する知見にあふれた学術雑誌である。

基本的な文献、学術論文も多数掲載されており、日本の“周縁”部の歴史等を知るには不可欠の雑誌となっている。

●日本消費者問題基礎資料集成6（6期 政府関係資料）

『通商産業省年報』より消費者行政関係の記事を抽出、1957年～1982年分まで掲載。

自治体や企業にとって通達、通知と同じような意味をもった『消費者ニュース』（1976年26号～1982年55号まで収録）、消費経済課発行の『消費者行政ニュース』（1983年10月創刊号～1995年3月33号まで収録）、戦後日本消費者行政の軌跡をたどる幻の資料、経済企画庁消費者行政課発行の『資料 消費者行政Ⅰ 消費者保護政策』を完全復刻、ケネディ大統領の消費者権利宣言など世界の消費者行政に大きな影響を与えた資料を多数収録した経済企画庁消費者行政課発行の『資料 消費者Ⅳ 世界の消費者行政』を完全収録。

● Corpus Linguistics: Critical Concepts in Linguistics. 6 vols.

（コーパス言語学：言語学の重要概念、全6巻）

この半世紀におけるコーパス言語学の重要な論考を集め、テーマ別に編纂した6巻からなるシリーズである。第1巻はコーパス言語学の歴史、第2巻はコーパスの構築、第3巻はコーパス研究、第4巻はコーパス言語学と辞書編纂・言語教育、第5巻はコーパス言語学の理論的基盤、第6巻はコーパス言語学と自然処理に分かれている。各巻は2部から構成され、理論的側面、歴史、コーパス・デザイン、言語的情報の付与、辞書とコロケーション等、12のテーマに下位区分されており、編者による書き下ろしの概説に加え、年表と詳細な索引が付されている。

● Goldstein on Copyright. 3rd edition（ゴールドスタインの著作権法、第3版）【台本のみ】

音楽・出版・映画・半導体・ソフトウェアの各業界における著作権法実務上の現状と問題点。著作権の譲渡およびライセンスに関する司法解釈の詳細な分析。アイデアの契約による保護、不正競争防止、トレードシークレット、パブリシティ権等、伝統的な著作権保護とのギャップをうめる様々な法理論。寄与侵害、代位責任等、二次的賠償責任に関する広範な議論。著作権法と破産法もしくは反トラスト法が交錯するような複雑な実務上の問題点に関する議論。条約等、国際著作権界の動向。

● Illustrations of Political Economy, Taxation, Poor Laws and Paupers

(例解・経済学, 課税, 救貧法)

Vols. 1-9: Illustrations of Political Economy.

Vols. 10-11: Illustrations of Taxation.

Vols. 12-13: Poor Laws and Paupers Illustrated.

● Learning and Memory (学習と記憶, 全4巻)

学習と記憶能力の研究を網羅した書物。1章：学習理論と行動，2章：記憶の認知心理学，3章：記憶システム，4章：記憶のメカニズムの4巻からなる。心理学や神経科学の基礎的な研究知見と，それを疾病治療や加齢現象に応用した最新の研究や，教育場面で実践した研究を取り上げている。本書で取り上げられている主なキーワードは，学習分野では，学習理論，条件づけ，弁別と般化，消去，霊長類・哺乳類・無脊椎動物の学習と記憶，行動分析。記憶分野では，感覚記憶，ワーキングメモリー，情動と気分，イメージ，エピソード記憶，プライミング，健忘症。神経科学分野では，前頭葉，海馬，LTP，加齢と記憶，神経新生，アルツハイマー病である。

● Lewin on Trusts. 18th ed (リューインの信託法, 第18版)

本書は，イギリスにおける信託の法と実務に関する最も権威あるテキストの1つである。今回の改正によって，近時の判例法と制定法の説明が加えられ，完全にアップ・トゥ・デイトされた内容となった。内容は以下のとおりである。

信託の意義，分類，設定，信託における受託者，受益者，受益権，信託財産の管理，信託違反と救済。

● Lexicology (語彙論, 全6巻)

言語学の重要概念 (Critical Concepts in Linguistics) というシリーズの一つで，語彙論 (Lexicology) 分野における古今の理論から先端的应用まで，言語哲学 (ライプニッツなど)，辞書学 (ジョンソンなど) から，認知言語学 (レイコフなど)，人工知能 (ミンスキーなど)，機能言語学 (ハリデーなど)，コンピュータ言語学 (プステヨフスキーなど)，社会言語学 (ラボフなど) に至るまで，精選された貴重な文献の，非常に射程の広い文献集・コレクションである。

● Macgillivray on Insurance Law. 11th ed (マッギリブレイの保険法, 第11版)

イギリス保険法についての体系書。損害保険契約，生命保険契約，傷害保険のすべての種類の保険契約について詳細な解説を加えている。もちろん，たとえば，損害保険契約であれば，火災保険，自動車保険，責任保険などに分かれるという形でより細かな保険種類ごとの解説もなされている。

もっとも，本書は保険種類ごとの各論的な解説というところに必ずしも重点があるわけではない。保険契約法の基本理論についても，古い時代の判例から最新の判例までを網羅した上で，精密な分析に基づいた詳細な解説がなされている。

● **Münchener Kommentar zur Zivilprozessordnung. 3 Bde. 3. Aufl.**

(ミュンヘン版ドイツ民事訴訟法コンメンタール, 全3巻, 第3版)

ドイツ民事訴訟法について, 逐条的に詳細な注解をほどこした注釈書(コンメンタール)。

● **Pestalozzi. Samtliche Werke. Hrsg. A. Buchenau, E. Spranger and H. Stettbacher.**

(ペスタロッチ全集(書簡共) シュプランガー他編, 全42冊)

58年の歳月をかけて(現在も継続中であるが)世界各国に現存するペスタロッチに関する資料を精力的に収集・刊行した労作である。その意味では現在刊行されている数多くのペスタロッチ関係著作の中で, 最も優れた刊行物と云える。

● **Rethinking Marxism: A journal of economics, culture and society. Reprint. Vol. 1 -17**

(マルクス主義再考:経済・文化・社会雑誌, 復刻版, 第1~17巻)

1936年にハーバードで創刊されたScience and Societyの姉妹誌として, 主として経済・文化・社会に関するマルクス主義的な立場からの学術論文専門誌として刊行された雑誌。

ソ連を中心とする社会主義体制の崩壊のはるか以前の, 1970年代から多様な展開をみせてきた西欧・アメリカのマルクス主義の代表的な諸論者のほかに, マルクス主義とは距離を置きつつ批判的な立場で現代の社会経済分析を行ってきた代表的諸論者の論文も掲載されている。また, マルクス及びマルクス主義に関心をもつ若手研究者の意欲的な論文も数多く掲載されている。

● **United Nations Convention on the Law of the Sea 1982: A Commentary. (Vol.IV,VI)**

(1982年国連海洋法条約—コメンタリー, 第4巻および第6巻)

国際海洋法秩序を構成する国連海洋法条約(1982年採択)の注釈書(逐条解説)セット(第1巻~6巻)のうち, 本学図書館に所蔵されていない2つの巻。

国連海洋法条約全320ヵ条と附属文書(9つの附属書, 最終議定書, 決議, 第11部の実施協定)のうち, 『第6巻: 第133条~191条, 附属書IIIとIV, 最終議定書, 決議II, 第11部』と『第4巻: 第192~278条, 最終議定書, 附属書VI』。いずれも国連海洋法条約の該当条項の逐条注釈を含む。

海外出張報告

学術情報のさらなる流通と可視性の向上を求めて —DC2008ポスター出展とTIB訪問について

附属図書館情報システム課 紙 谷 五 月
同 情報管理課 問 谷 実 希

1. はじめに

附属図書館では、「北海道大学学術成果コレクション：HUSCAP」¹⁾の関連事業として、国立情報学研究所の学術機関リポジトリ構築連携支援事業²⁾の委託を受け、「機関リポジトリ上の情報資源の発見及びアクセス性の向上のための調査研究開発」(AIRway)³⁾という研究開発事業を行っています。この事業に関連して、平成20年9月20日から28日にかけてドイツを訪問し、2008年ダブリン・コアとメタデータの応用に関する国際会議(DC2008 - International Conference on Dublin Core and Metadata Applications)⁴⁾で成果を発表するとともに、ドイツ国立科学技術図書館(Technische Informationsbibliothek: TIB)⁵⁾で聞き取り調査を行いました。

2. DC2008 - International Conference on Dublin Core and Metadata Applications

DC2008は、メタデータについて、その規格から適用事例までを幅広く扱う国際会議です。今年はベルリンのフンボルト大学を会場に開催され、世界各国から約300名の研究者や技術者、図書館員などの専門家が参加しました。会議では、メタデータについての研究発表や事例報告、ポスター発表、ワークショップなどが行われました。

このポスター発表の場に、AIRwayの成果を報告するため、'junii2 and AIRway - An Application Profile for Scholarly Works and its Application for Link-Resolvers'というタイトルで出展しました。これは、メタデータの規格の一つであるjunii 2⁶⁾を取り上げ、その適用事例としてAIRwayについて解説したものです。AIRwayとは、データベースの検索結果などから電子ジャーナルなどに掲載されている論文本体への経路を提示する仕組みであるリンク・リゾルバを活用し、同様に機関リポジトリに登録されている論文本体へもアクセスできるようにするもので、文献の可視性をより向上させることを目的としています。

発表は、2分間の口頭発表と、2回の休憩時間と並行したポスターセッション(合計1時間半)の形式で行いました。ポスターセッションでは、データベースと機関リポジトリを結びつけるというAIRwayのアイデアが注目を集め、図書館員や機関リポジトリの担当者、プログラマなど様々な参加者から、junii 2やAIRwayの詳細に関することを中心に、多くの質問を受けました。

なお、出展したポスターは、DC2008のWebサイトで公開されています⁷⁾。



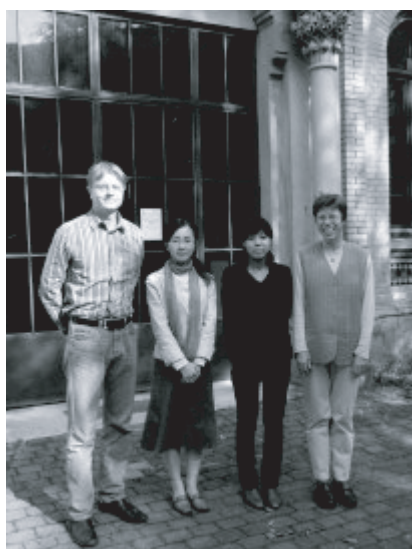
ポスター発表の様子

3. ドイツ国立科学技術図書館 (Technische Informationsbibliothek: TIB)

TIBは、1959年に開館した国立の科学技術分野の専門図書館です。ドイツ国内に限らず、世界中の科学技術分野の資料を収集対象としており、資料メディア約700万部、専門雑誌約18,500誌を所蔵する、この分野では世界最大規模の図書館です。政策に基づき、世界中の研究者に求める科学技術情報を提供することを使命として、国際的なILLなどの文献提供サービスにも力を入れています。

一方、TIBはデジタルオブジェクト識別子 (Digital Object Identifier: DOI)⁸⁾ の登録仲介機関 (Registration Agency: RA) としても活動しています。DOIは、インターネット上の電子文書やデータなどの様々な情報資源に恒久的に付与される識別子で、学術論文に多く用いられています。DOIは、URL転送の仕組みを利用して、情報資源へのアクセスを可能にします。URLは変更されることがあるため、しばしば情報資源へのアクセスが断たれることがあります。しかし、DOIはシステムの内部でURLの変更に対応するため、DOIそのものは変更されることがありません。そのため、DOIを用いることで、情報資源への永続的なアクセスが保障されます。

DOIは国際DOI財団 (International DOI Foundation: IDF) が管理しており、IDFとDOIを登録したい出版社など (Registrants) との間を仲介するのがRAです。今回は、このDOIの登録に関し、具体的な



TIBの担当者の方々と筆者

作業内容や運営体制、関連プロジェクトなどについて、担当の方々からお話を伺いました。

TIBは、科学技術、医学分野の一次データや、ヨーロッパで公的に助成された研究成果に対するDOI付与を、仲介の対象としています。これは、研究データというものは失われやすいものなので、可視性を高め、世界中から入手、利用しやすくするために行っているもので、DOIを付与したデータはTIBのオンラインカタログに登録しているとのことでした。また、近年は、出版者団体ではなく、図書館などの非出版者団体による学術情報流通の拡大を目指し、ドイツ国外の機関とも連携して、仲介の対象を広げているそうです。

こうした活動や取り組みに対する姿勢からは、学術情報の提供に対する意識の高さを強く感じ、大変感銘を受けました。

4. おわりに

今回の出張では、全日程を通じて学術情報の流通のあり方について深く考えさせられました。また、発表したポスターへの反応や、TIBの活動内容は、今後の事業運営にとって大いに参考になるものでした。今回の発表と調査の成果を活かし、より利便性の高いサービスの提供に向けて、今後とも尽力して参ります。

最後になりましたが、お世話になりましたDC2008のスタッフの皆様と、お忙しい中大変ご親切に対応してくださいましたTIBの皆様に、心より感謝申し上げます。

- 1) 北海道大学学術成果コレクション: HUSCAP
<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp>
- 2) 国立情報学研究所 学術機関リポジトリ構築連携支援事業
<http://www.nii.ac.jp/irp/>
- 3) AIRwayプロジェクト
<http://airway.lib.hokudai.ac.jp>
- 4) DC2008 - International Conference on Dublin Core and Metadata Applications
<http://dc2008.de>
- 5) TIB Hannover
<http://www.tib-hannover.de>
- 6) メタデータフォーマットjunii 2
<http://www.nii.ac.jp/irp/archive/system/junii2.html>
- 7) Horikoshi, Kunie; Nonaka, Yuji; Kamiya, Satsuki; Sugita, Shigeki; Asoshina, Haruo; Sugita, Izumi. "junii 2 and AIRway - an application profile for scholarly works and its application for link-resolvers". DC2008 - International Conference on Dublin Core and Metadata Applications. Berlin, Germany, 22-26 September 2008.
http://dc2008.de/wp-content/uploads/2008/10/08_kunie_poster.pdf
- 8) The Digital Object Identifier System
<http://www.doi.org>

(いずれも、2008年10月15日アクセス確認)

シリーズ 6

附属図書館北方資料室紹介

開拓使による写真の撮影

・道路の造成

明治4(1872)年開拓使に雇われて来日したケプロンや、彼の部下のお雇い外国人も含めて彼らの建言は『開拓使顧問ホラシ・ケプロン報文』(いわゆるケプロン報文)にまとめられています。そのケプロン報文の中でケプロンなどが「北海道開拓のために、まず最初に必要」と強く要求しているのが函館から札幌まで馬車が通ることができるような道路の建設です。開拓使もその必要性は強く感じていたのでしょう。函館・札幌間の道路(札幌本道あるいは札幌新道と呼ばれています)は明治5(1872)年3月に着工し、明治6(1873)年6月に完成しています。函館から札幌への経路は、函館から森までは陸路、森から室蘭までは海路、そして、室蘭から札幌までは陸路となっていました。

『写真1・2』は、明治5(1872)年、函館にいた田本研造が撮影した札幌本道工事光景です。



写真1 亀田桔梗野之境116番山ヲ崩谷地埋立之図
明治5(1872)年 田本研造撮影



写真2 無沢之山道749番堅石切崩之図
明治5(1872)年 田本研造撮影

亀田は現在の函館市。無沢は現在の七重町です。これらの写真は、『札幌新道開鑿写真帖』にまとめて収められています。この写真帳には無沢の写真が7枚、亀田の写真が6枚、合計13枚が収められています。昭和11~12(1936~1937)年に旧北海道庁が刊行した『新撰北海道史』編纂のため、旧北海道庁の道史編纂掛が開拓使時代の文書類から写真に関するものを抜き出した『開拓使時代 写真』を見ると、黒田開拓次官が明治5(1872)年6月に『無澤新道714番ヨリ始メ780番迄ノ内11枚』と『116番山ヲ切ルノ図』を含む29枚を正院(太政大臣・左右大臣・参議で構成される政治の最高機関)へ提出し、9月に正院から開拓使へ返却されています。同じネガ(種板)からプリントした別の写真かもしれませんが、『写真1・2』は、それら29枚に含まれていて、開拓使の依頼により田本研造が撮影した写真と考えて良いでしょう。

・開拓使札幌本庁舎

同じ時期、札幌でも開拓史による建築工事が活発に行われます。有名なのは、開拓使札幌本庁舎です。開拓使本庁舎は、木造2階建・中央部に八角形のドームを載せた建物で、現在の北海道庁舎の敷地に建築されました。明治5(1872)年7月に着工し、翌、明治6(1873)年10月末に完成しますが、

残念ながら、明治12(1879)年1月17日、火事で焼失します。

『写真3・4』は、明治6(1873)年7月に行われた開拓使本庁舎の上棟式を武林盛一が撮影した写真です。開拓使は、7月2日に「本庁の地鎮祭上棟式を7月6日(強雨の場合は順延)に行く予定、一般にも開放する」旨の通達を出しています。正確な日程はわかりませんが、7月上旬に撮影した、と見て間違いは無いでしょう。

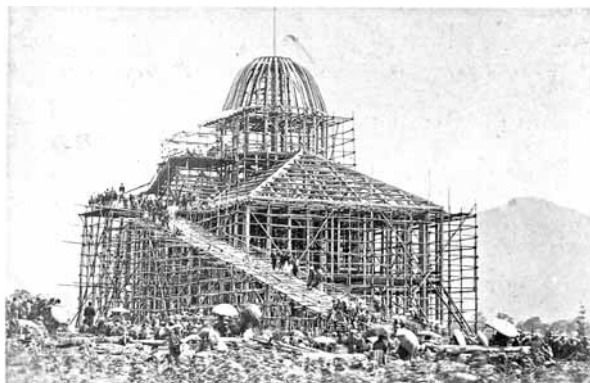


写真3 開拓使札幌本庁上棟式(側面)
明治6(1873)年7月 武林盛一撮影

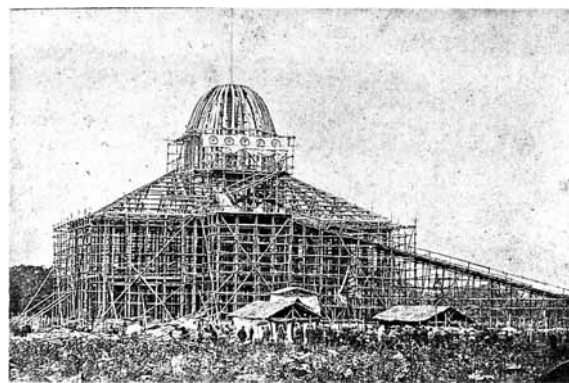


写真4 開拓使札幌本庁上棟式(正面)
明治6(1873)年7月 武林盛一撮影

さて、『写真3』ですが、北方資料室には同じネガ(種板)から紙焼プリントしたと思われる写真が4枚あります。それぞれを、便宜的に『写真3-1, …, 写真3-4』とするとそれぞれの大きさは、

- ・写真3-1 (タテ 5.7cm × ヨコ 8.9cm, 建物の幅 6.0cm)
- ・写真3-2 (タテ11.3cm × ヨコ17.5cm, 建物の幅12.1cm)
- ・写真3-3 (タテ13.4cm × ヨコ20.8cm, 建物の幅13.8cm)
- ・写真3-4 (タテ13.3cm × ヨコ20.0cm, 建物の幅13.6cm)

です。建物の幅を見てわかるように、写真の縮尺が違います。これは、紙焼プリントを引伸して作成した時の拡大率が違う、ということだろうと思います。一番小さな写真3-1が原板の大きさではないかと推測するのが自然でしょう。

さて、前号で紹介した『舎密局必携(文久2(1862)年刊)』で上野彦馬が紹介している紙焼プリントの作成法は、現像した湿板と印画紙を密着して太陽光に感光させる「密着焼付(コンタクト・プリント)」です。この方法では、紙焼プリントの大きさはネガ(種板)と同じになります。では、武林はいつごろこれらの写真を引伸したのでしょうか。

『写真3-1』は、米国人教師ブルックスが持っていた写真です。ブルックスの契約期間は、明治10(1877)年1月～明治21(1888)年10月です。この原板の大きさと推定される写真も、ブルックスが日本にいた時代にプリントしたものでしょう。他の写真は、『札幌農学校所属博物場の蔵書印』と『旧北海道庁の蔵書票』しかその時代を知る手がかりはありませんでした。「札幌農学校所属博物場」は、現在北方生物圏フィールド科学センター・植物園にある博物館です。この博物場は開拓使が「札幌仮博物場」として明治10(1877)年に設置し、開拓使が廃止になったことから農商務省の所管となり、札幌農学校へと移ってきますが、博物場と称するのは、明治15(1882)年の農商務省の時代です。札幌農学校へ移管され、農場(農学校)の一部となるのは、明治17(1884)年ですので、それ以上昔へは遡れません。旧北海道庁も明治19(1886)年以前へは遡れません。

一方『写真4』は、上棟式を正面から写した写真です。この写真は3枚所蔵していてそれぞれの大き

さは、タテ13.5cm前後 × ヨコ20.5cm前後です。裁断が少し違っているため、写真の大きさも少し、違っていますが、どれも建物の幅は12.9cmと一定で同じ縮尺です。この上棟式（正面）の写真は、国立公文書館でも所蔵しています。国立公文書館所蔵の写真は、開拓使が札幌から東京へ送ったのでしょう。残念ながら、写真の大きさはどれ位か国立公文書館の目録ではわかりません。昨年、東京都庭園美術館が開催した展覧会『建築の記憶展』には、国立公文書館が所蔵する上棟式（正面）の写真が出展されました。『建築の記憶展』の目録によると、この正面から撮影した写真は、タテ11.7cm × ヨコ17.7cmとなっています。一方、北方資料室で所蔵している写真に記録されている建物の高さは11.5cmで、明らかに国立公文書館所蔵の写真と縮尺が違います。

国立公文書館所蔵の上棟式の写真がいつ、東京に届いたかはわかりません。しかし、国立公文書館は、10月末に完成した開拓使本庁舎の落成記念写真も所蔵しています。この落成記念写真が太政官に届いたのは明治6（1873）年11月と、落成後1か月以内には届いてることは確認できています。上棟式の写真も、黒田開拓次官が政府高官に「順調な北海道開拓」を誇示するために使ったのだと推測されます。とすると、この上棟式の写真も撮影後1か月程度か、遅くとも落成写真とともに送られているでしょう。したがって、国立公文書館所蔵の上棟式の紙焼プリントは、明治6（1873）年中に作成されていると見て良いでしょう。

さて、この国立公文書館所蔵の上棟式正面の写真も引伸した写真でしょうか。可能性は二つ考えられます。

1. 原板の大きさは、側面写真の原板と推測される約6 × 9 cm。国立公文書館・北方資料室の写真ともに引伸した写真。
2. 原板の大きさは、国立公文書館が所蔵する約12 × 18cm、北方資料室が所蔵する上棟式写真は引伸した写真。上棟式側面の写真は、原板の大きさが6 × 9 cmで撮影された、あるいは、ブルックスの持っていた紙焼は密着ではなく縮小した紙焼プリントとなっている。

どちらでしょうか？ 武林が2種類の大きさのカメラを持っていたとも考えられますが、後者より前者の正面・側面ともに6 × 9 cmで撮影した可能性が大きいと思います。

側面写真の一枚『写真3-2』は、国立公文書館が所蔵している正面写真と同じサイズです。ひょっとすると、『写真3-2』は、国立公文書館所蔵の正面写真とペアをなす写真なのかもしれません。また、『写真3-3』と『写真3-4』は印画紙の大きさは同じですが、ほんの少し拡大率が違います。田本は、側面写真で拡大率を決めてから正面写真を引伸したのかもしれません。

この時代の引伸方法は、カメラ（暗箱）を逆さまに使っていたのでしょう。外から暗室に太陽光を取り込み、カメラのネガにあて、レンズから出てくる光を壁などに投影し、そこに印画紙を当て感光させる、という方法です。これまたひょっとすると、武林は、前年の明治5（1872）年、助手についたスチルフリートからこの引伸技術の詳細を教えてもらったのかもしれません。

では、函館にいた田本は引伸技術を持っていたのでしょうか？ 明治5（1872）年9月、正院から開拓使へ返却された新道開拓写真29枚のリストは、『小型ノ部』と『大型ノ部』に分かれています。『小型ノ部』と『大型ノ部』双方に『写真1』と思われる『116番山ヲ切ルノ図』が出てきます。もし、『小型ノ部』と『大型ノ部』に出てくる写真が同じだったとしたら、函館にいた田本は明治5（1872）年当時、引伸技術を持っていたことになります。（北方資料室）

教員著作寄贈図書

(平成20年 6 月 13 日～10 月 15 日)

寄 贈 者	所 属 部 局	寄 贈 図 書	所 在
吉開 将人	文学研究科	中華民族の多元一体構造 / 費孝通編著 ; 西澤治彦 [ほか] 共訳. - 東京 : 風響社, 2008. 6 .	本館・開架・教員著作
小泉 格	名誉教授 (理)	図説地球の歴史 / 小泉格著. - 東京 : 朝倉書店, 2008. 6 .	本館・開架・教員著作
小泉 格	名誉教授 (理)	日本海・過去から未来へ / 日本海学推進機構編; 富山県国際・日本海政策課, 日本海学推進機構企画. - 東京 : 角川学芸出版, 2008. 3. - (日本海学の新世紀 / 日本海学推進会議編; 8. 総集編)	本館・開架・教員著作
小泉 格	名誉教授 (理)	日本海と環日本海地域 : その成立と自然環境の変遷 / 小泉格著. - 東京 : 角川学芸出版, 2006. 7 .	本館・開架・教員著作
家田 修	スラブ研究センター	開かれた地域研究へ : 中域圏と地球化 / 家田修編. - 東京 : 講談社, 2008. 1. - (講座スラブ・ユーラシア学 ; 第 1 巻)	本館・開架・教員著作 北分館・開架・一般
宇山 智彦	スラブ研究センター	地域認識論 : 多民族空間の構造と表象 / 宇山智彦編. - 東京 : 講談社, 2008. 2. - (講座スラブ・ユーラシア学 ; 第 2 巻)	北分館・開架・一般
加藤 重広	文学研究科	言語学基本問題集 / 佐久間淳一編. - 東京 : 研究社, 2008. 8.	本館・開架・教員著作 北分館・開架・一般
安田 慶秀	名誉教授 (医)	最新血管外科手術 : 106 例疑难病例解析 / 安田慶秀著 ; 張福先主译. - 北京 : 科学技术文献出版社, 2008. 4 .	本館・開架・教員著作
山口 二郎	公共政策大学院	政治を語る言葉 : 札幌時計台レッスン / 山口二郎編著. - 東京 : 七つ森書館, 2008. 7 .	本館・開架・教員著作
川初 清典	高等教育機能開発総合センター	高地トレーニング : ガイドラインとそのスポーツ医科学的背景 / 青木純一郎[ほか]著. - 東京 : 日本体育協会, 2002. 3 .	本館・開架・教員著作 北分館・開架・一般
川初 清典	高等教育機能開発総合センター	Proceedings of international symposium on winter sports sciences commemorating the 2007 FIS nordic ski WC in Sapporo / edited by Takahiro Uesugi, Shieko Hareyama, Kiyonori Kawahatsu. - [Sapporo] : Hokkaido university COOP, c2008.	本館・開架・教員著作 北分館・開架・一般
遠藤 乾	公共政策大学院	紛争現場からの平和構築 : 国際刑事司法の役割と課題 / 城山英明, 石田勇治, 遠藤乾編. - 東京 : 東信堂, 2007. 10. - (未来を拓く人文・社会科学 ; 0)	本館・開架・教員著作
敷田 麻実	観光学高等研究センター	地域からのエコツーリズム : 観光・交流による持続可能な地域づくり / 敷田麻実編著 ; 森重昌之, 高木晴光, 宮本英樹著. - 京都 : 学芸出版社, 2008. 4 .	本館・開架・教員著作 北分館・開架・一般
栗林 真也	電子科学研究所	脳磁気科学 : SQUID 計測と医学応用 / 原宏, 栗城真也編. - 東京 : オーム社, 1997. 1 .	本館・開架・教員著作
愛甲 哲也	農学研究院	利用者の行動と体験 / 小林昭裕, 愛甲哲也編著. - 東京 : 古今書院, 2008. 10. - (自然公園シリーズ ; 2)	本館・開架・教員著作 北分館・開架・一般
井上 純一	情報科学研究科	ビギナーズガイド情報理論 / 井上純一著. - 大阪 : プレアデス出版, 2008. 10.	本館・開架・教員著作 北分館・開架・一般

ご惠贈誠にありがとうございました。

図書館では本学教員が執筆した図書を収集しています。新たに本を出版される際には、是非ご惠贈くださるようご協力お願い致します。また、北京大学図書館との相互交流および協力に関する覚書の締結に基づき、北京大学との交換用にもう 1 冊分、ご寄贈いただきますようご協力をお願い致します。とりまとめは、附属図書館で行います。

学術成果コレクション(HUSCAP)寄贈文献

(平成20年 6 月13日～10月15日)

69名の研究者のみなさまから、143件のご著作論文等を寄贈いただきました。
また、研究紀要等電子ジャーナル化推進プロジェクトにより、新たに12研究
科等の18タイトルの紀要文献540件が公開されました。

HUSCAPについて詳しくは、<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/>をご覧ください。



ご惠贈誠にありがとうございました。図書館では本学教員が執筆した著作の原稿ファイルを収集し、HUSCAPにて保存・公開しています。新たに論文等を発表された際には、是非ご惠贈くださるようご協力お願い致します。ファイルは、repo@lib.hokudai.ac.jp宛にメールでお送りいただくだけで結構です。

会議（平成20年 7月12日～11月14日）

【学 内】

◎図書館委員会

○第212回〈9月11日(木)〉（持ち回り）

議題

1. 北海道大学附属図書館利用規程の一部改正について

○第213回〈10月15日(水)〉（持ち回り）

議題

1. 不用決定対象図書について

◎図書選定小委員会

○平成20年度第1回〈7月17日(木)〉 ○第2回〈10月29日(水)〉

◎学術成果発信小委員会

○平成20年度第1回〈9月19日(金)〉

◎附属図書館中期目標・計画検討ワーキンググループ会議

○平成20年度第1回〈10月22日(水)〉 ○第2回〈11月6日(木)〉

【学 外】

◎国立大学図書館協会

○学術情報委員会

平成20年度第1回〈7月31日(木)〉（東京大学） 第2回〈10月29日(水)〉（東京大学）

○秋季理事会〈10月17日(金)〉（東京大学）

◎第82次国立七大学附属図書館協議会及び第7回国立七大学附属図書館長会議並びに第41回国立七大学附属図書館事務部課長会議〈11月14日(金)〉（北海道大学）

◎北海道地区大学図書館協議会

○第51回図書館職員研究集会〈8月22日(金)〉（北翔大学）

○第58回総会〈8月29日(金)〉（苫小牧駒澤大学）

○幹事館会議 第3回〈8月29日(金)〉（苫小牧駒澤大学）

○図書館職員研究集会企画委員会（北海道大学）

第4回〈7月25日(金)〉 第5回〈9月26日(金)〉

◎北海道図書館連絡会

○図書館年鑑2009北海道ブロック協力者会議〈10月2日(木)〉（道立図書館）

各委員会等委員変更について

任期満了等により以下の委員会委員の変更がありました

図書館委員会

平成20年11月1日現在

所 属	職 名	氏 名	電話	任 期	備 考
北海道大学病院	教 授	佐々木 秀 直	6027	20. 9. 16～22. 3. 31	新 任
高等教育機能開発総合センター	教 授	木 村 純	5286	20. 9. 18～22. 3. 31	再 任
文学研究科	教 授	千 葉 恵	5343	20. 10. 1～21. 3. 31	新 任

北分館委員会

平成20年11月1日現在

所 属	職 名	氏 名	電話	任 期	備 考
高等教育機能開発総合センター	教 授	木 村 純	5286	20. 9. 18～22. 3. 31	再 任
文学研究科	教 授	千 葉 恵	5343	20. 10. 1～21. 3. 31	新 任

学術研究コンテンツ小委員会

平成20年11月1日現在

所 属	職 名	氏 名	電話	任 期	備 考
北海道大学病院	教 授	佐々木 秀 直	6027	20. 9. 16～22. 3. 31	新 任

図書選定小委員会

平成20年11月1日現在

所 属	職 名	氏 名	電話	任 期	備 考
文学研究科	教 授	千 葉 恵	5343	20. 10. 1～21. 3. 31	新 任

附属図書館中期目標・計画検討ワーキンググループ

平成20年11月1日現在

所 属	職 名	氏 名	電話	任 期	備 考
文学研究科	教 授	千 葉 恵	5343	20. 10. 1～21. 3. 31	新 任

人 事 往 来

【平成20年 7 月31日付発令】

〔辞職〕

榮 森 義 晴 附属図書館情報サービス課係長（北分館閲覧担当）

【平成20年10月 1 日付】

岩 田 慈 子 附属図書館情報管理課（雑誌受入担当）（附属図書館情報サービス課付（北キャンパス合同事務部））

図書館日誌（平成20年 7 月～10月）

月日	項 目	月日	項 目
7 月		12	平成20年度第 2 回榆蔭編集委員会
1	図書館見学(韓国子ども図書館職員 4 名)	12	科学研究費補助金(ZS)打ち合せ(NII) (情報システム課)
3	平成19年度第 2 回北海道地区大学図書館協議会幹事館会議	17	ライブラリーセミナー (Web of Scienceの使い方)
4	学術情報ソリューションセミナー(札幌) (情報システム課)	17	平成20年度第 5 回ホームページ委員会
7	図書館見学(柳(潘)淳沢国連事務総長夫人)	19	平成20年度第 1 回学術成果発信小委員会
7-18	平成20年度大学図書館職員長期研修 (情報サービス課)	21-27	Dublin Core2008会議(Berlin) (情報管理課, 情報システム課)
9	北海道図書館連絡会議(道立図書館) (情報サービス課長)	22	図書館見学(市立函館高校生徒76名)
11	第147回北分館委員会(平成20年度第 1 回)	26	第51回北海道地区大学図書館職員研究集会企画委員会 (5 回目) (北大)
15	文献探索ワークショップ(経済学研究科)	29	文献探索ワークショップ(法学研究科)
16	平成20年度第 4 回ホームページ委員会	30	ライブラリーセミナー (Web of Scienceの使い方)
17	図書館見学(北海道ハイテクノロジー専門学校生徒38名)	30	DRF企画委員会Airway担当者会議(東京) (情報システム課)
17	平成20年度第 1 回図書選定小委員会	10月	
23	UPKI認証連携基盤によるSSO実証実験説明会 (NII) (情報システム課)	1	ドイツ文化センター東京シンポジウム(東京) (館長, 情報システム課)
23-25	Web of Science講習会	2	図書館年鑑2009北海道ブロック協力者会議(第 1 回目) (道立図書館) (情報サービス課長)
23-25	平成20年度学術ポータル担当者研修講師 (名古屋) (情報システム課)	3	財務マネジメントに関する調査研究事業第 2 回 合同検討会 (東京) (情報管理課, 情報システム課)
24	第 1 回ERMS実証実験会議(東京) (情報管理課)	6-8	北海道地区国立大学法人等中堅職員研修(北大) (情報管理課, 情報サービス課)
25	第 2 回電動集密書架仕様策定委員会	7	SFX管理者向講習会
25	第51回北海道地区大学図書館職員研究集会企画委員会 (4 回目) (北大)	9	情報探索入門
31	科学研究費補助金(ZS)打ち合わせ(NII) (情報システム課)	10	文献探索ワークショップ(法学研究科)
31	SpringerLink & IEL説明会(工学研究科)	15	文献探索ワークショップ(北方圏センター)
31	国立大学図書館協会学術情報委員会 (平成20年度第 1 回) (東京) (館長, 部長)	15	第213回図書館委員会(平成20年度 第 4 回) (持ち回り)
31-8 / 8	図書館実習 (藤女子大学 1 名, 武蔵女子短期大学 6 名)	16-17	情報探索入門
8 月		17	Web of Science JCR講習会
1	SpringerLink 説明会(本館)	17	文献探索ワークショップ(教育学研究院)
3(日)	2008北海道大学オープンキャンパス	17	国立大学図書館協会理事会(東京) (館長, 部長)
6-8	平成20年度第 1 回ネットワーク管理基礎研修(NII) (情報システム課)	21	北分館自衛消防訓練
11	第 3 回電動集密書架仕様策定委員会	21	情報探索入門
20-9 / 4	本館書庫洋書蔵書点検	21	平成20年度第 2 回図書館情報システム定例会議
22	第51回北海道地区大学図書館職員研究集会(北翔大学)	22	文献探索ワークショップ(教育学研究院)
27	図書館見学(湧別町図書館協議会委員 8 名)	22	平成20年度第 1 回附属図書館中期目標・計画検討ワーキンググループ会議
27	財務マネジメントに関する調査研究事業第 1 回 合同検討会(東京) (情報管理課, 情報サービス課, 情報システム課)	24	獣医学研究科文献探索講習会補助
27-29	平成20年度学術ポータル担当者研修講師 (東京) (情報システム課)	27-29	北海道地区国立大学法人等係長研修(北大) (情報管理課, 情報サービス課)
29	第58回北海道地区大学図書館協議会総会(苫小牧) (館長, 部長, 情報管理課長, 情報サービス課長, 情報管理課長補佐)	27-11/14	「本は脳を育てる」企画展示(北分館)
29	平成19年度第 3 回北海道地区大学図書館協議会幹事館会議	28	本館自衛消防訓練
31	本館・北分館閉館 (全学停電のため)	29	平成20年度第 2 回図書選定小委員会
9 月		29	国立大学図書館協会学術情報委員会 (平成20年度第 2 回) (東京) (部長)
1-5	漢籍整理長期研修(東京) (情報システム課)	29-30	DRF地域ワークショップ(広島) (情報システム課)
4-5	第40回国連寄託図書館年次会議(東京) (情報サービス課)	30	平成20年度附属図書館講演会
8-12	北分館蔵書点検	30	情報探索入門
10-12	平成20年度図書館等職員著作権実務講習会(札幌) (情報サービス課)	30	図書館見学 (国立台湾海洋大学教員12名)
11	第212回図書館委員会(平成20年度 第 3 回) (持ち回り)		

北海道大学附属図書館報「榆蔭」(ゆいん) 第130号 平成20年11月28日発行

〈編 集〉 「榆蔭」編集委員会

〈発 行〉 北海道大学附属図書館 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目
TEL : 011-706-2967 FAX : 011-747-2855 ホームページ <http://www.lib.hokudai.ac.jp>